

高次脳機能障害の支援

適切な支援により社会復帰も可能になる

高次脳機能障害に対する訓練も支援もなかった時期には、一命をとりとめ、治療がひと段落して病院を退院しても、仕事や学校に行くことが出来ず、自宅で過ごすしかない方が多く見られました。

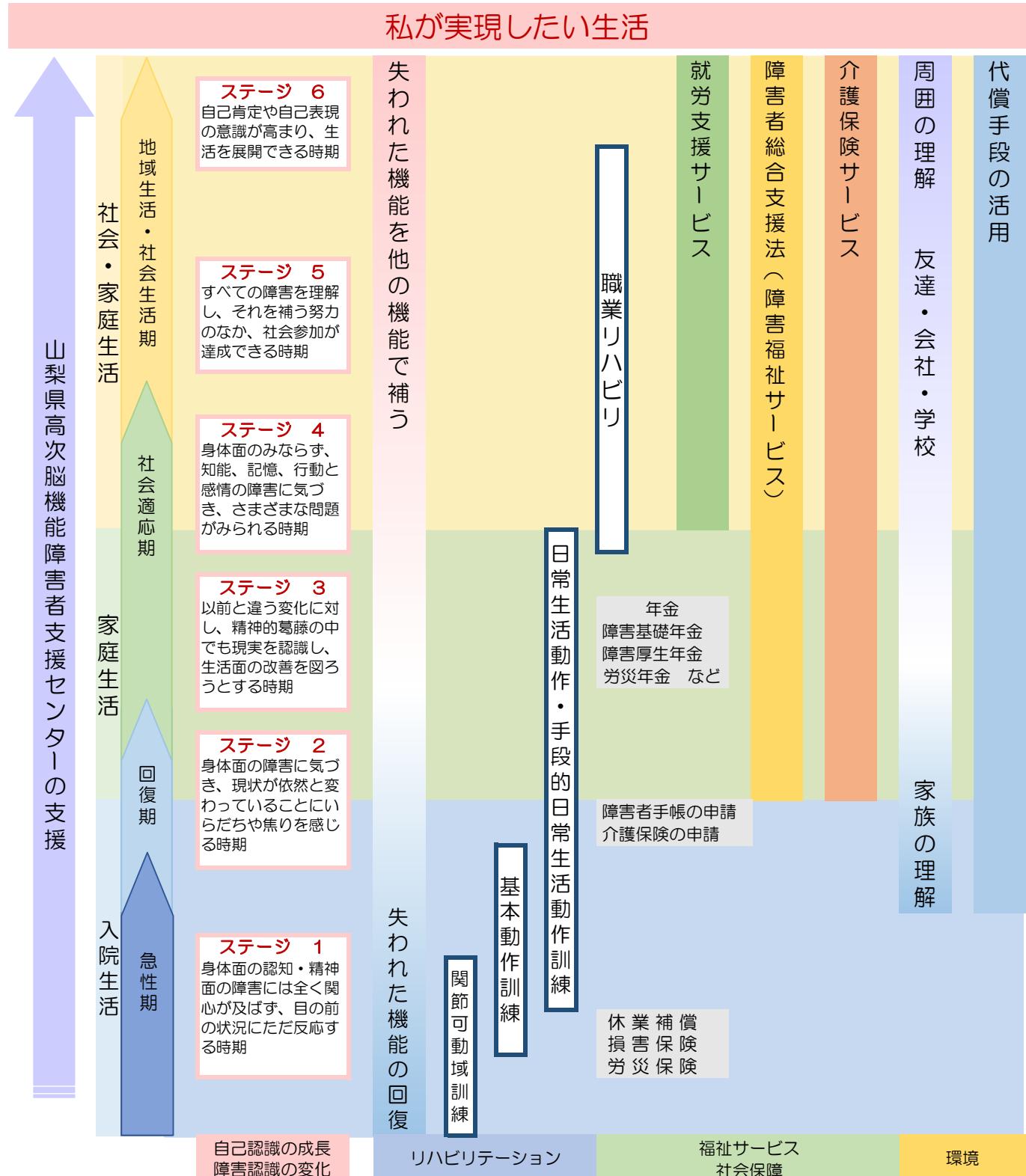
今日では、適切な訓練や、職場環境の整備によって、症状や後遺症があっても、日常生活や社会生活を送ることが可能になっています。

「薄皮をはがすように、少しずつ良くなる」「年単位で回復する」ともいわれる症状の変化に対しては、入院初期から本人や家族、周囲の方々による、高次脳機能障害の正しい理解と適切な対応が必要です。

また、病気やケガ、後遺症の状況により、利用できる制度は異なります。「取り戻したい・実現したい生活」のために、今どのような状況にあるのか、次の目標は何かなどは、次のページの図を参考にしてください。

今お困りのことや日常生活の様子は下記の項目を参考にご相談ください

- 現在お困りのこと
- 病気やけがをした時期
- 入院やリハビリを受けている（受けていた）時期
- 障害者手帳を持っている：身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳
- 仕事や学校を休んでいる、もしくは辞めている
- 経済的な補償を受けている：傷病手当金・失業保険・労災保険・自賠責保険・年金
- 障害福祉サービスを利用している
- 介護保険サービスを利用している
- その他、利用しているサービス
- 日常生活の様子
 - 一人で外出すると迷子になる
 - 時間に合わせて行動できない
 - 困っても助けを求められない
 - その他
- 金銭管理
 - 同じものを必要以上に購入する
 - 思い込みや勘違いで他人にお金を渡す
 - 所持金以上の買い物をする
 - その他
- 食事
 - 購入できるが、かたよった食事内容
 - 調理や配膳など一人では行えない
 - コンロの火を消し忘れる
 - その他
- 通院と服薬
 - 薬を飲んだことを忘れる、受診したことを忘れる
 - 診察時に「大丈夫」「困っていません」という
 - 受診の予定が変わると対応できない
 - その他
- 身じたく・清潔を保つ
 - 洗面、整髪、ひげそり、入浴をみずから行わない
 - 状況や場面に応じた身なりができない
 - 掃除や片付けができず、部屋がいつも散らかっている
 - その他
- 人間関係
 - 感情の抑制がきかない
 - 時と場所に合わない言動をする
 - 他人と関わろうとしない
 - その他



参考資料 ■ 『高次脳機能障害と家族のケア』（渡邊修著 講談社α新書）